

令和元年度 第3回幼稚園等初任者研修報告

静岡県内の公立幼稚園等の初任者が一堂に会し、6月27日に静岡県総合教育センターを会場に研修会が開催されました。

成長を促すための子ども理解に積極的に取り組もうとする意欲を高めるとともに、子どもや保護者への接し方に関する基礎的な知識・技能を習得することを目標に行われました。

今回は、小学校の初任者と合同で実施しました。幼児教育と小学校教育との連携を考える機会ともなり、実り多い研修となりました。



【講義】教育相談とは 教育相談の在り方、考え方などの基本について理解を深める。



(研修生の声)

- ・ 同じ言葉でも、受け手によって伝わり方が異なることを学び、保護者や子どもと話すときには、十分配慮しなければいけないと感じた。
- ・ 受容と許容は混同しないよという内容が印象的だった。普段の保育の中で曖昧になってしまう場面があったので、これからは見取りと言葉がけに気をつけていきたい。

【演習】子ども・保護者との基本的な接し方 基本的なカウンセリングの技法を学ぶ。



保護者役と学級担任役になって役割演技実習を行いました。

(実習のシナリオから)

1 状況一次のような悩みを持っている保護者と学級担任

子どもに落ち着きがなく、自分勝手なことをすることが多い。注意してもなかなかいうことを聞いてくれないばかりか、かえって悪いことをするので、保護者はどのように子どもに接したらよいか悩んでいる。

2 ねらい

子育てに自信を失い、子どもを非難することが多くなっている保護者の不安感や困惑を受容し、保護者との信頼関係を作っていく姿勢を学習する。

(研修生の声)

- ・ 聴いてもらえるうれしさを実感することができた。自分が子どもの話を聴けているのかなと振り返る機会となった。
- ・ コミュニケーションでは、言語より非言語の方が伝わる割合が高いことを知り、自分の表情やしぐさ、視線、癖などはどうであるか見直す必要性を感じた。
- ・ 役割演技を行ったことで、相手から見た自分の印象を聞くことができ、これまで気付かなかった自分の話し方について知ることができた。聴くことを意識したつもりであったが、話し過ぎてしまう癖があることが分かった。
- ・ カウンセリングの技法を具体的に学ぶことができ大変勉強になった。技法を使うことを意識すると、つい聴くことがおろそかになってしまう時があった。

【講義・演習】保護者と良好な関係を築くために 保護者への対応や関わり方を考える。

(研修生の声)

- ・ これまでの自分の関わりを振り返るよい機会となった。子どもや保護者の声にしっかりと耳を傾けるようにしたい。また、困った保護者ではなく困っている保護者という捉えで接していきたい。
- ・ グループのメンバーの話し合いで、自分と異なる視点の感想や意見を聞くことができ、視野を広げることができた。



今回の研修を通して

- ・ 今回の研修を通して、子どもや保護者への接し方についての基礎的な知識・技能を習得することができた。日々の保育の中で「先生のお話をお耳で聴きましょう。」と言っていたが、その前に自分自身が子どもや保護者の話に耳を傾け聴くことが大切であると感じた。家庭との連携を大切に、カウンセリングマインドに心掛け、保護者との信頼関係を構築していきたい。
- ・ 7月に入ると個別面談が始まる。今回の演習では、保護者の立場と教師の立場のそれぞれを体験できたので、とても参考となった。今日学んだことを早速生かしていきたいと思う。
- ・ 小学校の初任者と合同で行い意見交換を行うことができ、自分とは異なる対応や手立てを聞け、とてもよかった。年齢に合わせて子どもへの関わり方も変わっていくので、とても新鮮だった。幼小の連携が求められており、これからも小学校の先生との交流を深めたい。
- ・ 保護者対応については、正直、苦手意識を持っている。聴く姿勢をもち、共感に心掛け、逃げずに向き合っていきたい。